

平成 27 年度 横浜 RCE ネットワーク推進協議会	
議 題	1 国内 RCE の動向について（横浜市環境創造局政策課） 2 活動内容・その他報告（以下、敬称略） (1) 横浜国立大学 国際社会科学部 教授 小池 治 (2) 横浜市立永田台小学校 校長 住田 昌治 (3) 特定非営利活動法人ソフトエネルギープロジェクト 理事長 佐藤 一子 (4) RCE 横浜 若者連盟 代表 有見 亜佐土 (5) 麻布大学 環境科学科 村山 史世 3 横浜市 ESD 推進コンソーシアムについて（横浜市教育委員会指導企画課） 4 その他
日 時	平成 28 年 3 月 23 日（水） 15:00-17:00
場 所	関内中央ビル 10 階大会議室
出 席 者	別紙のとおり
資 料	1 次第、出席者名簿、座席表 2 各説明者の発表資料 ※その他机上配布あり

議事概要

開会

- ・横浜 RCE の諸活動について、意見交換・情報交換の場として本日開催
- ・2月3日に横浜で開催された「2016年国内 RCE 実務者会議」の概要を説明

1 自己紹介

2 国内 RCE の動向について

- ・【国連大学について】 RCE に関する facebook を立ち上げたので、「ぜひ『いいね』を」との伝言を受けた。
- ・【環境省について】策定したプログラムについては、2019 年度に総括的レビューを行う予定。
- ・【仙台について】小中学校では取組が盛んだが、大学での取組が課題。
- ・【横浜について】6月の環境月間のイベントへの出展や市職員向け研修の講師など、WWF ジャパンとの連携は平成 28 年度も予定。
- ・【中部について】世界会議が開催された場所であることから、ESD の認知度が上がったが、会議後は関心が薄れていることが課題。NGO・NPOのカラーが強いが、今後学校教育との連携に力を入れ、人材を育成したい。
- ・【北海道央圏について】範囲は 21 市 42 町 7 村。特徴は「6. 先住民族との公正な関係づくり」。今後活動が活発化するので情報を周知していく。

3 横浜国立大学 小池様

- ・小中学校ともにユネスコ・スクール。
- ・海岸調査は、韓国や中国、上流から流れてきた漂着物・ごみを調べることで環境の現状がわかる（「ビーチコーミング」）
- ・ESD パスポート活動は、スタンプ制でボランティア 30 回分ためると日本ユネスコ協会から認定証が送られるというもの。

4 永田台小学校 住田様

- ・もみじアプローチでは、学校全体をいかに持続可能にしていくか、地域の活性化につなげていくか、を考えていく。
- ・横浜市教育大綱を策定しており、市としても ESD を重視していく。
- ・学校、先生が元気であることが土台。意識改革をしないと見せかけの ESD に終わってしまう。自由・平和・希望、そして排他的でないこと（いかに受容できるか）が大事。
- ・これまでのことからどのように脱するか、持続可能な未来をどうするか、みんなが学年を越えて「デ・ザイン」することが大事。
- ・地域の課題まで目を向けること。学んだことが学校、地域、家庭の中でどのように生かされるのか変容をみていかなければならない。変容のための教育を意識すること。

《質疑応答》

- ・課題設定はどのように行っているのか？（伊藤）
→永田台団地では高齢者や認知症といったように地域の課題がある。地域の課題をいかに子どもたちに把握させるか。教室の中に閉じこもってはいけな。い。（住田）
- ・学年を越えた「デ・ザイン」を目的とした授業はどのくらいの頻度なのか？（樋口）
→横浜には学年暦がある。年度の始めだけでなく終わりも大事。年に3、4回程度。ワークショップはたびたび開催している。（住田）

5 ソフトエネルギープロジェクト 佐藤様

- ・小中校合わせて年間25～30回授業に行かせていただいている。
- ・初めは20年前。当時NPOを学校に呼ぶのは大変だったと聞いている。
- ・ブラジルの地球サミットをきっかけに女性5名でスタートした。
- ・エネルギーはごみと違って遠い話に思われてしまう。話だけでなく体験学習で楽しんで学んでもらうことが大事。
- ・小学校に行って温暖化について知っている人を訊ねてもほとんどいないが、山崩れや大雨はほとんど全員が知っている。関係があるということを知らない。
- ・一番いいのは若い人が学校に行って教えて一緒に体験すること。
- ・工作教室ではソーラークッカーを作っている。防災グッズの中にも入れてもらっている。

《質疑応答》

- ・自然エネルギーの取組をしているということだが、原発についての質問や団体としてのスタンスは問われることはあるか？（小俣）
→ある。スタンスはないほうがよいと思っている。使うだけ使っておいて「反対」はないと思う。反対も賛成もしない。自然エネルギーを進め、省エネを進めることが大事。（佐藤）

6 RCE横浜 若者連盟 有見様

- ・若者連盟は2010年に設立したインカレ。今年度でハマコンは5回目。5大学が主なメンバー。
- ・ハマコンの趣旨は、環境活動に取り組んでいる横浜の学生を対象に、社会人と学生の縦のネットワークづくり、コンテストを通じた学生どうしの横のネットワークづくり。
- ・今後は新たなことにも挑戦していきたい。RCE 横浜でも何か一緒に活動していきたいので声をかけていただきたい。

《質疑応答》

- ・来年度の目標は？（佐藤）

→先日メンバーが交代したばかり。4月に来年度の予定を検討する。ハマコン以外の新しいことも考えていきたい。(有見)

- ・小学生に温暖化、省エネなどを教えていただければ。(佐藤)

7 麻布大学 村山様

・2011年11月から相模原市青根で活動している。「あざおね社中」は水源を拠点に生物多様性の把握や環境教育、まちづくりに携わっている教員、学生、市民など志を同じくする者の集まり。麻布と青根で「あざおね」。

・活動の始まりは3年間耕作されていなかった田んぼでの活動。田んぼは地元にとっては地域課題だが、外の人間、学生にとっては地域資源と捉えられた。最初は生物多様性の把握や世界をちょっと変えられればいいと思っていたが、継続的に付き合っていくうちになぜ過疎が起こっているのか、地域課題に気づき、地域の人々への関心を持つようになってきた。

・青根は地域自体の持続可能性が危ぶまれている。人口減少が見込まれる中、交流頻度を増やし、交流を促進する資源の一例が生物多様性。

・生態系サービスの一つである水について、横浜と青根は水源（宮ヶ瀬湖）でつながっている。つまり青根の持続可能性は横浜の持続可能性につながっているということ。

《わがまちCMについて》

・14年の登場人物はすべて青根の方々だが、15年はお礼・報告の意味で作製し、社中に初めて参加してくれた人やCMを作製する関係で知り合った人に参加していただいた。CMで伝えたいことは、地域資源など地域のいいものをよそ者の視点で評価させていただき、地元の方々に自発的に自信をもって広めていただくこと。(中山)

8 横浜市ESD推進コンソーシアム

・教育の視点で、横浜市の学校現場でESDを進めていく話をさせていただく。

・ESDは環境・社会・経済などそれぞれの立場で進めても学校には浸透しない。これまでとは異なる方法で来年ESDをやっていく。

・一度に進めるのは難しい。「横浜の時間」の中である程度はESDに取り組んでいるが、無意識である。浸透させていくには意識化させていくことが大切。学校経営上良いとか、学校と地域の連携が進むという視点でESDに取り組んでもらえるとよい。

・横浜は多様で学校の自主自立が強い自治体。つまり、ある程度やることを学校が決めれば、あとは自由にやってくださいということ。教育委員会は下から支えていく。緑区なら田んぼがあって梨を栽培している地域がある、海沿いや住宅の問題、永田台なら高齢化など、それぞれの地域に合ったテーマで取り組むことが重要。

・自分たちの周りや地域の活動の中で世界につながるようなことを考える。やってよかった、つながってよかったという経験がやがて持続可能な世界につながっていく。まずはact locally。

・様々な大学や機関、NPOなど横浜ならではの組織が、今後活動していく上で入口やきっかけづくりになれば。

《質疑応答》

・ヨコハマ・エコ・スクール(YES)との連携は？それとは別にコアになる学校に何校か声をかけるのか？(佐藤)

→始めはできそうだという学校に声をかける。基本は継続的にできるところ。議決と国の審査しだい。(鈴木)

- ・できればプログラムも学校と一緒に相談しながら年間通したものをモデルでできたらいいなと思う。
(佐藤)
- ・今後3年間でユネスコ・スクールをどのくらいにしていく予定なのか？(村山)
→特に予定していない。増えそうな芽はあるが、全校がESDを意識してやることに価値を置く。(鈴木)
- ・ESDが「持続可能な開発のための教育」ということであれば、それがイコール環境のことにならないのか。環境だけなのか、それともつながりとか関わりに重点を置くのか。今後の活動の参考にしたい。
(若林)
→環境に係る部分が多いが、国際、文化遺産、防災、まちづくりの視点と連携したほうがよいのではないかと。あるいは防災を中心に取り組んでいる学校に声をかけて、環境だけじゃないというところを見せていきたい。(鈴木)
- ・環境と社会と経済をバランスよく開発・発展していくことが大事。あいちなごや宣言以降は、気候変動、生物多様性、防災、持続可能な生産と商品の4つが重要とされてきた。しかし、1つだけ突出して進めるのではなく、どうバランスよく地球全体が成長していくかが重要。(住田)
- ・act locally となるとどうしても国際が除外されないかとも思ってしまう。(若林)
→地域によっては外国籍が多い学校もある。国際を考えていく要素はあるし、勉強していく中である国の問題を考える入口にもなる。(鈴木)
- ・温暖化だけ守っても、人間が生きていくには経済の発展など生きている人間の価値がまっとうできないといけない。小学校では難しいが中高大学では経済の話もしている。(佐藤)
- ・ESDを日本だけで考えるのでは狭い。例えばアフリカの貧困問題をまったく考えないで私たちのこれからの未来を考えるというわけにはいかない。地球全体に視野をもつためにどうやって学校教育の中に落とし込んでいくか。おそらく学校だけではできないから、地域のNGOやJICAなどと一緒に考えていくことが大事で、そのためにこのようなRCEネットワーク協議会有る。(小池)

以上

平成 27 年度 横浜 RCE ネットワーク 推進協議会

平成 28 年 3 月 23 日（水） 15:00～17:00

関内中央ビル 10F 大会議室

次 第

- 1 国内 R C E の動向について
横浜市環境創造局政策課

- 2 活動内容・その他報告
 - (1) 横浜国立大学 小池様
 - (2) 永田台小学校 住田様
 - (3) ソフトエネルギープロジェクト 佐藤様
 - (4) R C E 横浜 若者連盟 有見様
 - (5) 麻布大学 村山様

- 3 横浜市 E S D 推進コンソーシアムについて
横浜市教育委員会指導企画課

- 4 その他

